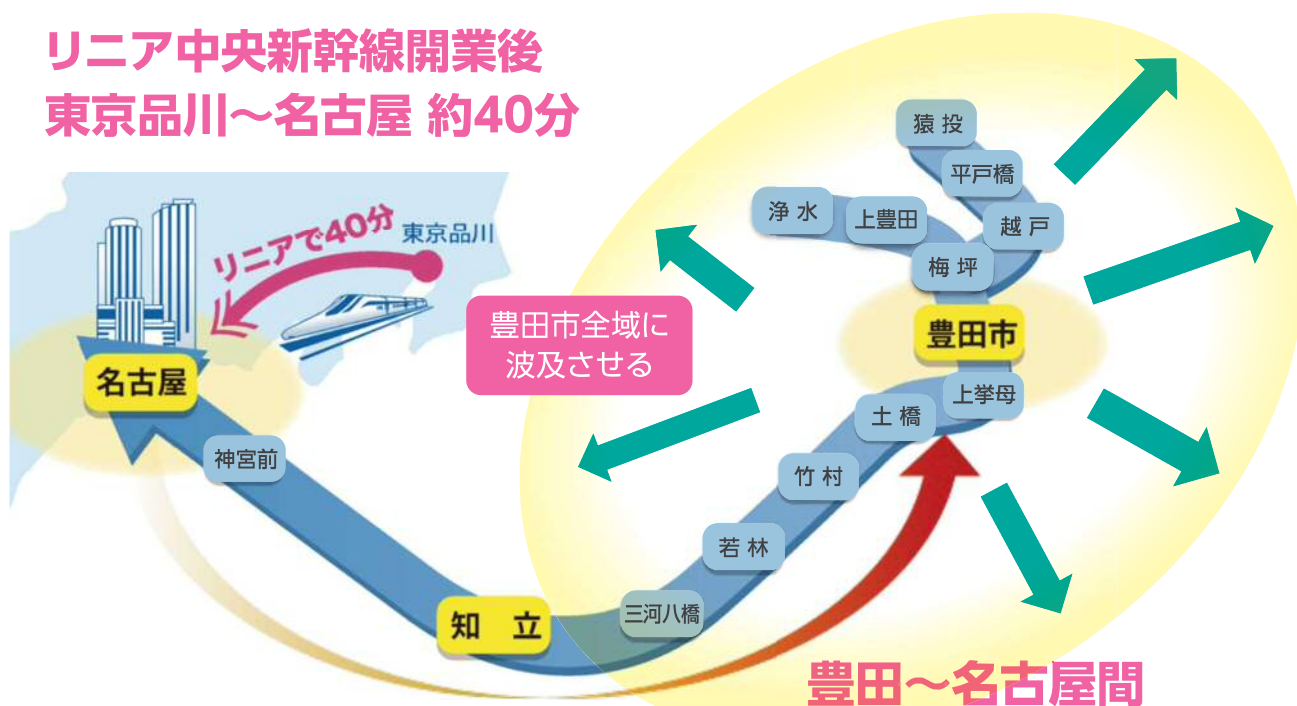


# 名古屋鉄道三河線整備促進期成同盟会とは？

現在事業中のリニア中央新幹線により東京品川～名古屋間は最速40分となります。本同盟会は、リニア効果を最大限に豊田市へ波及させるため、豊田～名古屋間の40分交通圏の実現を目指し、鉄道会社及び関係機関に対し、三河線の利便性向上に必要な整備を求めるとともに、鉄道利用者の増加につながる取組を進めています。

## リニア中央新幹線開業後 東京品川～名古屋 約40分



## リニア効果を最大限に波及 ⇨ 40分交通圏の実現

### 活動内容

- (1) 複線化等利便性向上に向けた鉄道整備要望
- (2) 利便性向上に向けた関係機関への要望
- (3) 利用者増加に向けた取組

### 活動実績

- H28.11 設立総会
- H29.1 要望活動実施
- H31.1 シンポジウム開催

### 構成員

- 会長** 豊田商工会議所会頭 **会長代行** 豊田市長 **副会長** 豊田市議会議長
- 幹事** (株)豊田スタジアム、豊田市議会(企画総務委員会委員長)、豊田商工会議所(専務理事)、豊田市(企画政策部長)
- 委員** トヨタ自動車(株)、ヴェルブリッツ、豊田まちづくり(株)、(株)名古屋グランパスエイト、  
連合愛知豊田地域協議会、豊田市高齢者クラブ連合会、(公財)豊田市スポーツ協会、  
(一社)ツーリズムとよた、豊田市議会(産業建設委員会委員長)、豊田市議会議員、豊田市区長会、  
沿線地区区長会、豊田商工会議所(副会頭)、豊田市(建設部長、都市整備部長) (2023.4現在 順不同)

# 豊田市のさらなる発展に向けて

豊田市は中核市でありながら、他の県内中核市を始めとした主要な都市と比べ名古屋までの所要時間が長いと感じている市民や来訪者は少なくありません。

## 三河線の乗降客数(豊田市内)

57,000人/日(H21)

64,700人/日(H26)

## 三河線の線路・運行

### 線路

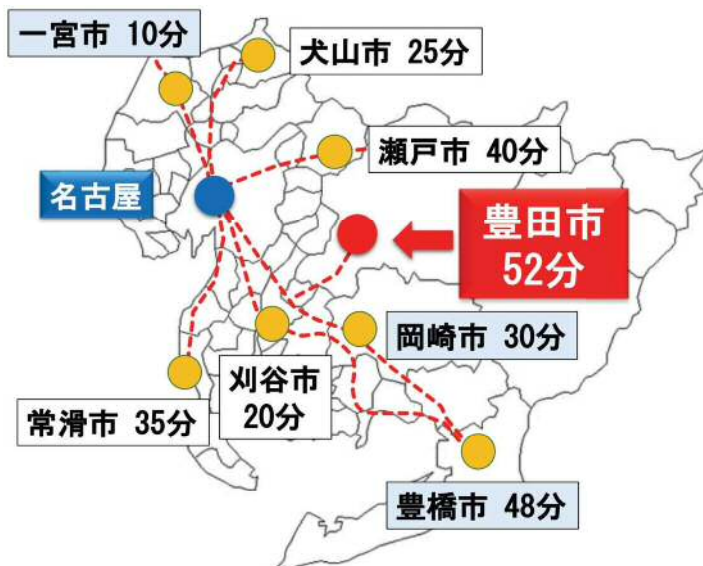
単線構造

※豊田市駅～梅坪駅間は複線構造

### 運行

急行列車の運行なし

時間4本の運行



豊田市から名古屋へ向かう主なルートは3つ、どのルートも名古屋までの移動時間は50分を超えていますが、この中で、乗り継ぎ、距離、沿線の人口、沿線まちづくり等を総合的に判断すると、最も時間短縮を優先的に取り組む路線は三河線となります。



愛環ルート  
(高蔵寺経由)  
62分

豊田線ルート  
(赤池経由)  
53分

三河線ルート  
(知立経由)  
52分

時間短縮を図る最優先路線は **名鉄三河線**

# 将来都市像

『つながる つくる 暮らし楽しむまち・とよた』を目指して

## つながる

リニア効果を享受し、名古屋を始めとした沿線地域とのアクセス向上でさまざまな地域の人とのつながりが強まる。

## つくる

ものづくりのまちを支える定住人口や流入人口を確保し、将来都市構造に向けて都市を形づくる。

## 暮らし楽しむ

さまざまな地域資源を活かすことにより暮らしを楽しむ豊かなライフスタイルを実現する。

## 居住 ～定住の促進～

名古屋とのアクセス強化により、通勤、通学の利便性が向上し、居住地として魅力が向上することで、転出抑制も含め、本市への定住促進が期待されます。また、三河線沿線では、4つの区画整理事業(花園地区、若林地区、土橋地区)等の定住施策が事業中又は計画中です。

今後も  
鉄道を活かした  
まちづくりを  
進めていきます。

## 産業 ～次世代産業の創出～

ものづくり産業の中核市として、東京圏からのビジネスによる来訪者の利便性が向上し、更なる交流の活性化により、新たなビジネスの創出や、本市が実証実験の場となるなどの効果が期待されます。

## 商業 ～交流人口の増加～

都心には豊田スタジアム始め多数の魅力的な文化・スポーツ施設が立地、駅舎を含めた駅前の再整備が予定されており、さらなる賑わいの創出が期待されます。また、山村部には多数の豊かな観光資源があり、名古屋とのアクセス強化と充実したバスネットワークを活かした、観光客の増加が見込まれます。